

Working mother

ワーキングマザー

子どもの成長に合わせて変化させてきた働き方

亀井 憲子さん

- 家族：夫、長男(中2)、次男(小6)、長女(小4)、義父、義母
- 子どもの預け先：なし
- 職業：看護師
- 職場：渡部病院(西条市)
- 勤務時間：シフト制(夜勤あり)
- 勤続：4か月

タイムスケジュール

06:00	起床	夫の弁当作り
07:00	朝食	子どもたち登校(7:30)
08:00	出勤	
09:00		
10:00		
11:00		
12:00	昼食	
13:00		
14:00		
15:00		
16:00		
17:00	退勤	買い物
18:00	帰宅	
19:00	家族そろって夕食	
20:00	入浴	
21:00	子どもたちの時間	
22:00	明日の準備や片付け	洗濯
23:00	就寝	

自然の流れで看護師に

私は岡山県出身で愛媛には大学進学で来ました。母も看護師として働いていて、家族や兄弟が協力し合うことが当たり前の環境で育ちました。その中で人の役に立つ仕事をしたいと思うようになり、看護科へ進みました。今思うと、正義感が強く生真面目に働く母をいつの間にかお手本にしていたのかも知れません。

大学卒業後は看護師として、付属の大学病院にフルタイムで勤務しました。同じ大学だった夫とは、卒業後に結婚し夫の実家のある西条市へ引っ越しました。長男出産後、産育休を取得して復帰する時に育児や家庭優先で働きたいため、病棟勤務から外来勤務を希望し、その後次男、長女の産育休復帰時にも外来勤務を続けることができました。

“子どもはいつまでも小さくない”

3人の子育てをしながらの通勤と仕事は負担が大きかったですが、夫の両親の助けもあり、何とか続けられました。しかし、長男が小学校へ入学すると、学校行事や長期休暇など対応することが各段に増え、次第に子ども中心の生活がしたいと思うようになりました。子育てに後悔を残したくないと退職を決意し、自宅近くの訪問入浴の仕事へ転職しました。1日3時間から働くことができ、時間の余裕が生まれ、子ども達の日常にじっくり向き合う生活が送れるように。訪問入浴の仕事にもやりがいを感じていましたが、もう一度病院で働きたいと思いが膨らみ、以前働いた病院に外来勤務のパート職員として戻りました。やがて、子どもたちの成長と共に、患者さんに一人一人寄り添う看護がしたいという思いが芽生えてきて、フルタイムで働くことを家族に相談してみました。今度は夜勤があり、当然家族の協力なくてはやっていけません。その時長男からの“お母さんがやりたいんやからやってみようや”という言葉が背中押しとなり、フルタイム勤務をすることになりました。

家族の成長を感じる生活

14年ぶりの病棟勤務はやはり不安がありました。職場でまず心がけたことは、信頼関係を大切に、わからないことは素直に聞いて教えてもらうことです。家庭の方は、夫や子ども達、夫の両親と、試行錯誤しながらなんとか回っています。長男が弟妹をリードして私が夜勤でいない空間と時間をうまく使って楽しんでいるようです。子どもの成長もちろんですが、“思い切ってやってみたら案外うまくいく”と思えたことが、フルタイムに戻ってうれしく感じるものの一つです。

NPO法人ワークライフ・コラボの

シゴト×ライフスタイル

★ポイントはここ★

同居する家族や子ども的人数・年齢によって生活スタイルは違ってきます。多くのワーキングマザーはその時々家族の状況に合わせ、働き方を変化させています。“子どもの成長にじっくり向き合いたい”“気持ちと”仕事に責任を持ちたい”“気持ちを調整してみよう”と考えることも働き続けるコツかもしれません。

今回の取材担当

高橋 浩子

高齢の母が骨折し、介護を担う生活が始まりました。周囲との協力を得ながら仕事と生活を両立しています。娘2人と夫の4人家族。

イベント・各種情報アップしています!

【FB】▶ <http://www.facebook.com/worcolla>

【HP】▶ 「ワークライフ・コラボ」で検索

